

判定不能	瞳の大きさが小さい・あるいは白内障や硝子体混濁などの影響で眼底写真がきれいに写らないため、正確な判定ができない状態です。眼科で診ていただくことをお勧めします。
白斑	網膜の中に白いものが溜まった状態で、糖尿病・高血圧など様々な疾患とともに認められることがあります。
眼底出血	網膜表面の血管の破綻や閉塞することで起こる網膜の出血です 様々な原因が考えられ、重大なものもあるので、受診の要否は判定区分を参照してください。
ドローゼン	網膜の細胞から出る老廃物で、加齢現象の1つです。加齢黄斑変性の前段階とされています。
有髄神経線維	網膜の神経線維は鞘を被っていませんが、生まれつき鞘を被った状態で白いブラシの刷毛のように見える所見をさします。多くは視力や視機能に影響を与えることはなく、心配ありません。
カッピング	緑内障の疑いがある所見です。受診の要否は判定区分を参照してください。
視神経乳頭縁出血	視神経乳頭部の出血です。緑内障で頻度が高い所見です。
神経線維層欠損	視神経乳頭から扇状に広がる神経線維が欠損することで、緑内障を疑う所見の1つです。
黄斑前膜・上膜	黄斑部を中心に形成される膜状物をいいます。視力障害が強い場合は硝子体手術をします。
網膜色素変性	眼の中で光を感じる組織である網膜に異常がみられる病気です。初期の症状は夜盲症で、視野が狭くなります。
視神経乳頭浮腫	視神経乳頭の充血や腫れを意味し、ぶどう膜炎や視神経炎などの炎症性疾患や脳内疾患の可能性もあります。
黄斑変性	網膜の黄斑部に異常が起こる病気で、先天性のものと加齢性のものに大別されます。受診の要否は判定区分を参照してください。
視神経萎縮	視神経が萎縮している状態です。外傷・炎症・変性疾患・腫瘍など視神経の病変のみでなく、周囲組織から視神経への圧迫・視神経の血管病変・網膜疾患および緑内障などでも起こりますので、まず原因を明らかにすることが重要です。
硝子体混濁	硝子体に濁りが生じています。放置してよいものと、治療が必要なものがあります。受診の要否は判定区分を参照してください。
網膜絡膜萎縮・変性	網膜絡膜の萎縮・変性で放置してよいものと治療が必要なものがあります。受診の要否は判定区分を参照してください。
円錐角膜	思春期近くに発生し、角膜の中央部が薄くなり、前方へ円錐状に突出してくる進行性の病気です。
黄斑円孔	網膜の中心部(黄斑部)に丸い穴があく病気です。高齢者に多い病気ですが、強度近視の方、眼球を強く打撲した後などにも起こることがあります。
偽黄斑円孔	黄斑前膜のタイプの1つです。中心窩を除く周辺部分にだけ前膜ができ、相対的に中心窩だけがくぼんだようになって、円孔のように見える状態です。
硝子体閃輝融解	黄金色のキラキラした結晶(コレステロールの結晶)が眼球内(硝子体)に多数浮遊している状態です。 別名、眼コレステロール症と呼ばれます。
視神経乳頭蒼白	緑内障の疑いがある所見です。進行すると乳頭は蒼白(白っぽく)になります。受診の要否は判定区分を参照してください。
高血圧性変化 動脈硬化性変化	眼底の網膜動脈を観察して、高血圧性変化の有無や動脈硬化の程度を評価したもの。高血圧性変化や動脈硬化性変化は見え方が悪くなるような自覚症状が乏しいため、指摘された場合は眼科受診と精密な眼底検査をお勧めします。
網膜血管蛇行	網膜の血管に硬化が起こり蛇行する現象です。高血圧・糖尿病・脂質異常症などが原因になることが多いので、主治医とご相談ください。
糖尿病網膜症	血糖値の高い状態が続くと、網膜に張り巡らされている細かい血管(毛細血管)が傷ついたり、つまったりして起きる病気です。 指摘された場合は眼科受診と精密な眼底検査をお勧めします。